

## 要点『日本文化原論 永続思想 主体性学』

ご挨拶

---

### 1)哲学文化

#### 1-1 真理の探究

親父はこう言った。「完璧な人間等いないから」。どのようなことを意図してわざわざ表現されたか。今考えると自他への考察から一つの悟りの境地を示し自己と外界へ向け相互補完や共生の意識を作る精神に重みを求めた。裏返すと完璧な人間像をどこかに抱き自他の不完全という観測と評価を起こす思考が見られる。真理の探究という発想を備え自他を含む同一利益を探し各自の長短を嗅ぎ分け適正な相関と持続を起こす方向に回る。常日頃の生産の定型から特定の利益の執着が起こり自己の正当性や信頼性と肯定感を推し進める態度が形成される。直接的な因果から間接性の観点と実感が広がり多様な要素の恩恵や脅威の相関を感じ特定領域から全体性へ世界観が広がると共に全体を統制する根源の観点が掴み出される。独りよがりの利益追求によらぬ感性を培う根源的な精神性が出現する。日頃の習慣として精神と身体と観念の有機的活動法則という基軸的な規則性が浮かべ健全な心身の出現に回る方式の認識が定まる。根源と根幹と産出性(部分と全体性)及び習慣等という生態観念を導出し人間と生態を伺う変わりづらい普遍の基準像の集約に及ぶ。

#### 主体性・領域観・生態概念

根源性、根幹性、産出性(部分性と全体性)、習慣・規則性、

根本的な観点が常態し自己や人間を伺う変わりづらい基準像と定着し、誰にも身近な樹木の生態を取り上げ人間を映す鏡を有し、言葉や概念と置き換え各現象の観点と認識や形成に回す人間性と自然観と社会性と生態系を作る感性と思考と行為と習慣の

活動法則性と纏まる。完璧性を探し求める発想と向上心が存続し確かな様式を掴みたい等という意識が稼働し何かに形を表しあらゆる現象を基礎づけられるようなものを構成し、自己の肯定感を作ると同時に不十分性の認識が出現し他存性の意識に回り自他との健全な社会性と公益性の創造へ及ぼせる人間像が産まれる。精神と身体と頭脳の回る生きた実際性の哲学文化という観点と稼働の姿と認識される。

## 1-2 根本性の原理

根本性の原理を土台性に備え対象範囲や領域観の基本原型を持って各対象の観測や形成の一貫した原理と働き、精神と身体と観念の回る制御を求め自他との良好な精神性を遂げる方式と掴み出される。「主体性の一般法則」なる基準概念と体系へ集約される。利便性や効率化の感覚が高まり物理的因果の基準が強まり生態の健全な原型の認識が弱まり歪性が広がる生活スタイルが形成される潮流に対し人間と生態の原型を問い形に起こし行き過ぎた効率性か肥満な非効率性か、両面を見極める機軸性を抑え、場当たり恣意的な操作によらぬ基準と過不足性の評価と方法を引き出す論理と現象を遂げる規則性が図られる。抽象的な理念に偏らず根本性を土台にした具象と準抽象と抽象の整合感に及び質実の良い規則性を反映した部分と全体性の概念と制御の創造が産まれる。いつの時代にも変わりづらい良質の根を求め、時々内外環境に直面し安定的な評価に回り然るべき施策の導出と稼働に及ぶ規則性が進められる。

## 1-3 物量感覚の高まりと相対化

物量感覚が強まる相対比による基準と判断に留まらず根本的な基準を導出し各対象性に応用する基準と適用の創造体系と高まり健全な心身を反映した表現や創造が存続する。保守やリベラル等という思想概念は現況性を踏まえ妥当な方法性の配置に及んで過不足と制御の感覚が形成される。普遍的不変の基準と経過や現況と評価予測を経て最良的方法の具象的な基準と体系観と習慣性を生む動静概念と規則性といった土台的且つ全体性の思想体系に纏まる。国益なる概念もゼロベースからの主体性原理を土台性に起こし時々の変容に照らし最良的な方法を引き出す原理と回る。健全な精神性から普遍的な不変と特定性の観点と探求を合わせ持つ創造方程式が産まれる。長期的な様式性と高まり哲学文化という概念に定着する。単細胞物理の人間の物化という

因果が強まる事への適正な施策の稼働を望む万人的な根源欲求と充足の創造を生む。定番と変則や基軸と枝葉の変わりづらい体系に整備される。根本的な原理の希薄な全体主義等という力みの激しい頭過多や体過多の性質の予防と働く普遍的不変の観念や原理を生む。ボンボン的な成長過程や物質依存の強い精神性に外れるほどに偏りの強い根源性と根幹性と全体性と部分性の観念に外れた歪性に回る。非社会性や慢性的犯罪症による負の連鎖と循環の広がらぬ適正策が求められる。暴走的自由主義という本質が映し出される。

#### **1-4 普遍的な不変と特定性**

人間と生態の完璧的な構図を問い適切な過不足の評価と予測と適正策を引き出す原理が求められる。「心身と観念の相関と習慣」を土台性に起こし、「局所性と構造性と根本的性質」や「短期性と中期性と長期性」の観点と相関の体系観を備え「動静概念と規則性」の原理に具象し集約される。日本という特定領域観の秩序形成において男系と女系なる観点による国民象徴の継承等という基準を作る前段的な考察の充実が図られ単細胞物質性の基調が広がらぬ創造を実現する。歪な世襲政治を肯定するための制度等と働く事のなき、無思考物質的な算式と判断が強まる事のなき、普遍的な不変と特定性の観点をもって絶対性の原理の向上と特定対象の適正が引き出される。

### **2) 真のグローバルスタンダード**

#### **2-1 方法的概念**

社会秩序として、「バランスオブパワー」「勢力均衡」等という観念を用いられる人が出現する。10の力を持つAが要れば、2と3と4と1という力を持つBとCとDとEで一つのグループを形成し、Aに対抗し力の均衡が図られる。等という原理と解される。物質因果の相関性を基本原理として、力の均衡性を保てば大きな争いに陥らず秩序が保たれる。単純物理の法則性による秩序形成となる。

#### **2-2 理想的概念**

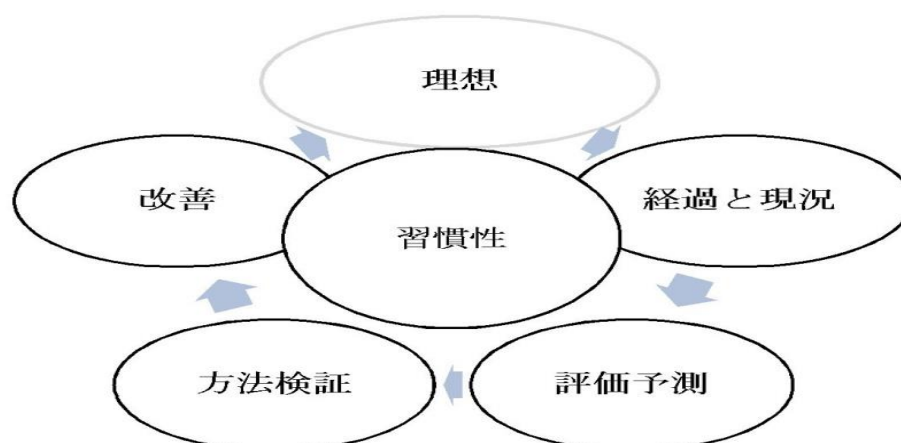
この方法論も現実的な発想として有効性が浮かび上がり、「なるほどそうか」と思える点も少なくない。しかし、あまりにも受動的な非人間性を帯び健全な精神性にどこ

か疑念が現れる。人間の意思や精神性の健全性を持って力の大きさに相応する精神性を出現させて、権利義務の均衡を各人が構成し自律的な意思を備えた身体性の活用を図る主体性像が作られる。精神的な因果性と物質的な因果性の相関から主体性や領域の健全な姿と描かれる。相対比較が進むほどに単純物理の均衡の発想に及んで秩序を求める手法に及ぶ。絶対性の原理として主体性の完結的な自制力を求め、力と責務の均衡を自ら図ることの出来る人間性にあって心身の健全な姿が起こる。普遍的不変の理念としては後者の概念を求め、理想尺度を備えながら多様な対象の出現と対面において適正や歪性の観測と評価を進め対象に相応する方法の妥当性を遂げるといった理念と現況と方法に回る観念と精神と身体の相関を果たす活動法則と至り、実際的な理念と稼働の状態と認識される。理想図という性格に、「バランスオブパワー」なる概念を配置するようであると、どこか違和感が出現する。あまりに程度の低い理想に留まり、人間性や社会性に不十分な点が起こる。

## 2-3 活動法則性

「理念と経過と現況と評価と予測、方法と検証と改善」の回る活動法則性を前提的な人間像と備え、各種理念の導出と実際性に対面し妥当性を起こす心身の相関を概念と起こし、地につく実際的な理念と稼働の姿が描かれる。独りよがりの高い理想を抱く自由も少なからず理解されるものの、歪な対象に過度なサービスをすることは、外界にとっても不利益になり、妥当な方法を鑑み投じる態度に、健全な精神性の稼働が起こる。犯罪をすれば取り締まり、更生の機会を与える事が対象の利益に連なる。

### 理想と現況と方法



## 2-4 基準と過不足性と制御性

過剰な寛容性は寧ろ弊害となって対象の不利益になる。過敏か鈍感か、過敏か寛容か、これらを分ける基軸性の概念を探し備え恣意的な利己性の強まらぬ基準尺度の形成と過不足の算定と評価や判定を起こす不動的な基準と稼働の習慣と持続において変らぬ精神の良質と実現の軌道が形成される。過去の経過や現況性という個別歴史性を踏まえながらあまりに純粹理論の一律的適用によらぬ歴史と理論」や「身体性と観念性」の適正を引き出す動静に回り健全な心身と観念の稼働に至る。理念に対し経過や現況性を踏まえながら観測と評価に反映させ適正な方法を引き出す実際が作られる。エネルギー均衡を求める態度が形成される。

## 2-5 成長過程、私教育と公教育

あまりに成長の過程が異なると、エネルギー循環の感覚の違いが広がり、歪な社会性が増進される。あまりに過保護な成長過程によりなんでも与えられ育つと一般的な尺度と適用の感覚差が広がって歪な不協和性と不快感の連鎖性に陥る。ボンボン育ちの悪性による歪性の連鎖と負の循環に及ばぬ一般性の尺度の同一性を求める公教育等という役割が産まれる。私教育と公教育なる概念と中身とあるべき相関が産まれる。公教育の立場で私的な利益の過剰な求めに及ぶと歪性の是正が図られず、特異性の出現や広がりを招いて社会秩序の歪性が拡大する。バランスオブパワー等という秩序であるところの私的な利益追求に偏った感覚が広がる。普遍的不変なる純粹性の利益概念の追求を加えてあまりに歪性が強まらぬ自己内発的な尺度と制御の主体性と領域化が果たされる。公務員や公益なる観念について一定の統一的な見解が揃い運用の適正に回る。大手マスコミ等という社会システム上の機関にも事実上の公共性が求められる。国境を越え統制される報道機関の要件等と精査され分化と統合の適正を模索し作る感性が出現する。

## 2-6 普遍的不変と特定性

普遍的不変性と特定性を合わせた基準と稼働の主体性と領域像が形成される。このような観念や文脈から生態の健全と永続の軌道が進められる。基盤性が揃わぬまま交流が促進されると正よりも負の影響が懸念される。交流を求めるほどに真のグローバル

スタンダードが求められる。歪な秩序が増幅し荒れた社会性と生態に陥る事の予防策が投じられる。言語を超え揃えられる同一的な概念の厚みを図る作為が必要となる。あまりに程度の低いボンボン体質が国家の舵取りをやるようであると良い潮流が進まない。国益を損ねるに留まらない。万国共通の基準と思われる。

#### 動静概念と規則性

<div>静的</div> <div>動的</div>	<div>普遍的不変性</div> <div>( 根源・根幹・産出 )</div>
<div>特定性</div> <div>・ A ・ B ・ C</div>	<div>動静</div> <div>( 根源・根幹・特定と全体 )</div>